

若手歯科技工士から見た 歯科用3Dプリンターの実際

テーマ2

歯科技工のデジタル化の発展は目覚ましく、ジルコニア修復物やCAD/CAM冠の普及により歯科技工所における切削加工機の活用はもはや当たり前となりました。近年では口腔内スキャナーによる歯科技工ワークフローの変化も相まって、歯科用3Dプリンターの活用が進んでいます。3Dプリンティング技術はモノづくり革命を起こすと取り沙汰され、様々な分野で活用が広がってきました。歯科医療分野もその例外ではなく、模型やキャストパターンなどのプリントに応用され、歯科用3Dプリンターを導入する歯科技工所も増えてきました。

しかし実際使用してみるとトラブルも多く、ソフト上でのパラメーターの調整や煩雑な作業を必要とすることがわかりました。今回は歯科用3Dプリンター活用において知っておくべき基本的知識や導入のメリット、デメリット、留意しなければならないポイントなどを、実際の体験をもとにお伝えいたします。また、病院の歯科技工部としての日々の仕事や、歯科技工士学校の閉校が続く歯科技工業界について、若手歯科技工士という立場からお話しさせて頂ければと思います。



■講師略歴

田村 聡

[たむら そう]

2015年 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻卒業
同年 神奈川県内コマーシャルラボ 入社
2017年 神奈川県内コマーシャルラボ 退社
2018年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科技工部 入職
所属

●東京都歯科技工士会 ●日本歯科技工学会
●東京医科歯科大学歯科技工同窓会「技友会」理事 学術部長